

日本化学会第93春季年会 (2013) 講演申込要項

第93春季年会実行委員会

主催	日本化学会
会期	2013年3月22日(金)～25日(月)
会場	立命館大学びわこ・くさつキャンパス(滋賀県草津市野路東1丁目1-1)
実行委員長	中條善樹(京都大学大学院工学研究科・教授)
内容	アカデミック・プログラム(AP:一般研究発表)(口頭・ポスター) アドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP)(ATPセッション・ATPポスター・ATP特別パネルディスカッション・博士セミナー・JACI(新化学技術推進協会)共催シンポジウム・ATP交流会) 特別講演・受賞講演・特別企画・展示会・表彰式・懇親会・市民公開講座 中長期テーマ・アジア国際シンポジウム・イブニングセッション・若い世代の特別講演・その他委員会企画
重要な日程	講演申込期間 2012年11月14日～11月29日 予稿原稿提出期間 2013年1月8日～17日 参加予約期間 2013年1月23日～2月22日 詳細は本誌1月号 プログラム公開 2013年2月19日(予定) 予稿集発行日 2013年3月8日(予定)
問合せ先	日本化学会 企画部 年会係 〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5 電話(03)3292-6163 E-mail: nenkai@chemistry.or.jp URL: http://www.csj.jp/nenkai/

標記年会の研究発表を、以下のように募集いたします。講演申込要項は毎回見直しが行われ変更されていますので、必ずご確認ください。本年会における留意点は以下のとおりです。

・今回より優秀講演賞(産業)はATPポスターにて審査を行います。

1 講演申込について

1.1 申込期間

2012年11月14日～11月29日

※講演申込完了時に発行される講演申込受付番号とパスワードを使用して、申込内容を訂正、削除することができます(訂正期間:2012年11月14日～11月30日13時)。

1.2 申込方法

春季年会ウェブサイト(<http://www.csj.jp/nenkai/>)上の講演申込フォームからお申し込み下さい。

講演申込フォームが使用できない場合は、お早めに事務局にお問い合わせ下さい。締切間際ですと対応できかねる場合もございます。

1.3 申込完了の確認

講演申込が完了すると、講演1件ごとに講演申込受付番号とパスワードを発行します。また、申込内容を申込時に入力したE-mailアドレスに通知します。申込者は、講演申込受付番号が発行されていることと通知が来ていることを必ずご確認ください。通知未着の場合には、11月30日までに必ず事務局までE-mailにてお問い合わせ下さい。期限後のお問合せには対応できませんのでご注意ください。

1.4 採否の決定

申込みいただいた講演の採否およびプログラム編成(“口頭(A講演・B講演)/ポスター・ATPポスター”の発表形式、発表部門、日時など)は、第93春季年会実行委員会に一任とします(希望と異なる場合もあります)。12月上旬

に各部門別にプログラム編成を行いますので、申込者はこの時期、プログラム編成委員からの問合せになるべく対応できるようにご配慮下さい。

1.5 講演番号の通知

12月下旬に申込時に入力したE-mailアドレス宛に通知します。通知未着の場合には、2013年1月7日～11日の間に必ず事務局までE-mailにてお問い合わせ下さい。予稿原稿提出には講演番号が必要です。

1.6 講演申込の取消

講演申込後に発表を取り消すと、プログラム編成に支障をきたすだけでなく、前後の講演者に対しても迷惑がかかります。社内審査がある場合は早めに手続きを開始し、必ず発表許可を取ってからお申し込み下さい。また学生が申込者の場合は、講演申込内容に関して指導教員の確認を受けてからお申し込み下さい。理由の如何にかかわらず、講演予稿原稿を提出した後の差し替え、取り下げは認められません。

1.7 講演申込内容の公表

採択された講演申込内容は、連絡先に関する部分を除き、講演プログラムやデータベースの形で下記により公開・無償配布します。なお、公開したプログラムに変更が生じた場合は春季年会ウェブサイトにて告知します。

- ・講演プログラム 2013年2月下旬
- ・プログラム検索(携帯サイト) 2013年3月上旬
- ・日本化学会研究者データベース 会期終了後

・JST JDreamII

会期終了後

1.8 特許

講演予稿集をもって特許における公知日とされる方は、発行日以降権利が6ヵ月留保されることとなります。特許出願の際に必要な発表証明については、下記 URL をご参照下さい。<http://www.csj.jp/news/happyo-syomei.html>

インターネットでの公開内容も研究内容の公知に当たります。本年会での講演申込内容の公開時期については、前項を確認して下さい。

1.9 著作権

講演予稿集に記載された内容に関する著作権は、日本化学会に帰属するものとします。したがって本会が必要と認めるときは転載し、また外部からの引用の申請があったときは本会において検討の上、許可することとします。

1.10 各種講演賞

本年会では「学生講演賞」・「優秀講演賞（学術）」・「優秀講演賞（産業）」の3種類の講演賞を設けて優れた講演を顕彰します。各講演賞の対象者・発表形式・対象部門等は以下のとおりです。なお今季から、優秀講演賞（産業）はATPポスターで発表・審査を行い、対象部門もアカデミック・プログラム（AP）の5部門（高分子、材料化学、材料の機能、材料の応用、資源利用化学）から全部門に拡大して、後述の3.2 **アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）**に記載された産業適用分野で募集、審査します。詳細は“産学交流委員会から優秀講演賞（産業）の案内”（本誌811ページ）参照し、是非この機会に奮ってご応募下さい。

学生講演賞

対象者 博士後期課程の学生会員
発表形式 口頭B講演
対象部門 アカデミック・プログラムの全部門
審査申込 上記条件を満たす講演すべてが対象となるため申込の必要はありません。

授与委員会 第93春季年会（2013）実行委員会

優秀講演賞（学術）

対象者 平成25年4月1日時点で満36歳に達していない正会員
発表形式 口頭B講演
対象部門 アカデミック・プログラムの全部門
審査申込 講演申込時に審査を希望する旨を申請して下さい。

授与委員会 第93春季年会（2013）実行委員会

優秀講演賞（産業）

対象者 平成25年4月1日時点で満40歳に達していない正会員および学生会員
発表形式 ATPポスター
対象部門 アカデミック・プログラムの全部門、但し審査分野は後述の3.2 **アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）**に記載されたP1～P7の産業適用分野
審査申込 講演申込時に審査分野（P1～P7）を明記して、審査を希望する旨を申請して下さい。

い。なお、定数に達した場合は、申込みを締め切る可能性がありますことをご了承下さい。

授与委員会 産学交流委員会

2 講演について**2.1 講演内容と講演者の条件****アカデミック・プログラム（AP）**

講演内容は未発表のものに限ります。また、講演申込者及び講演者（登壇者）は、講演申込時点において日本化学会の個人会員に限ります（講演申込は、会員1人につき1件です）。

アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）

今季より口頭C講演は廃止し、ATPの一般発表はすべてATPポスターで実施します。昨季までと同様、講演内容は未発表のものに限定せず、既発表のものや特許化・製品化済みの発表も可能です。また、APの口頭A講演、口頭B講演と同様の内容でATPポスターへ申し込みすることも可能です。活発なディスカッションのために、可能な限り具体的な化合物名や構造を明示して下さい。講演申込者および講演者（登壇者）は日本化学会の個人会員に限りますが、優秀講演賞（産業）の審査を希望する方は会員である必要があります。

※未入会の方は講演申込の前に日本化学会ウェブサイト（<http://www.csj.jp/>）より入会手続を完了させて下さい。

※連名者（共著者）は日本化学会会員に限られません。

※講演申込者・講演者（登壇者）・連名者（共著者）の如何にかかわらず本年会に参加される方は、全員参加登録が必要です。

2.2 発表形式と講演時間**アカデミック・プログラム（AP）**

口頭A講演 10分（講演7分・討論2分・交代1分）
口頭B講演*1 20分（講演15分・討論4分・交代1分）
ポスター 45分

アドバンスト・テクノロジー・プログラム（ATP）*2

ATPポスター*3 90分

*1 口頭B講演の発表資格は正会員もしくは博士後期課程の学生会員とします。

*2 今季よりATPの口頭C講演は廃止し、ATPの一般発表はすべてATPポスターで実施します。

*3 APの口頭A講演、口頭B講演と同様の内容でATPポスターへ申込み可能です。

2.3 発表言語

日本語もしくは英語とします。

2.4 発表用スライド（資料）

プレゼンテーション時に使用するスライド（資料）の言語は可能な限り英語で作成して下さい。

2.5 発表機材**口頭講演**

すべての会場に液晶プロジェクター・RGBケーブル・PC切替機を用意します。講演者はPCを持参して下さい。またトラブル対策として、バックアップファイル（ウイルス

のチェックおよびOS互換性に関してチェック済みであることをUSBメモリでご用意下さい。

ポスター

ポスターボード(縦210 cm×横90 cm〔予定〕)と画紙を用意します。

昨季はATPポスターで展示実演用の机を用意しましたが、今季は会場の都合により用意できません。ご了承下さい。

3 講演申込分類

3.1 アカデミック・プログラム (AP)

講演申込分類は毎年見直しを行っています。講演申込分類の誤りはプログラム編成ひいては会期中の運営にも多大な支障をきたしますので、必ずご確認下さい。

1. 化学教育・化学史

A. 初等中等教育(実践例など), B. 大学教育(実践例など), C. 化学史・化学技術史, D. 化学入試問題の評価, E. その他

2. 物理化学—構造

A. マイクロ波分光, B. 赤外・ラマン分光, C. 電子スペクトル・電子分光・電子状態, D. 磁気共鳴, E. 結晶構造, F. 固体表面, G. その他

3. 物理化学—物性

A. 気体, B. 液体・溶液, C. 液晶・ガラス, D. 相平衡・相転移, E. 表面・薄膜・ナノ物性, F. クラスタ・ナノチューブ, G. 電導体, H. 磁性体, I. 光物性・その他

4. 物理化学—反応

A. 気相反応(機構・速度・ダイナミクス), B. クラスタ, C. 光化学反応(液相・固相・表面・膜), D. スピン化学・磁場効果, E. 電子移動・エネルギー移動, F. 放射線化学, G. 電気化学・界面化学, H. 非平衡系反応, I. その他

5. 無機化学

A. 無機化合物の合成・反応, B. 無機化合物の構造・物性, C. 固体化学, D. 溶液化学, E. 放射化学・核化学・fブロック元素, F. ポリオキソメタレート, G. クラスタ化合物・包接化合物, H. 多孔性化合物, I. 層状化合物・ナノシート・無機薄膜, J. その他

6. 錯体化学・有機金属化学(主たる金属元素記号を1つ記入のこと)

A. 錯体化学(1. 合成, 2. 構造, 3. 反応, 4. 物性, 5. その他), B. 有機金属化学(1. 合成, 2. 構造, 3. 反応, 4. 触媒, 5. 有機合成, 6. その他), C. 生物無機化学, D. 材料関連化学, E. その他

7. 有機化学(主として物理有機化学的なもの)

A. 構造と物性(1. 分子構造と立体化学, 2. 新 π 共役系分子の合成と物性, 3. 分子性導体・磁性体, 4. 分子性半導体, 5. 光分子物性, 6. 分子認識, 7. 超分子化学, 8. ナノ構造体の構築と物性, 9. その他), B. 反応機構(1. 反応性中間体, 2. イオン反応・加溶媒分解など, 3. ラジカル・電子移動・光化学反応など, 4. 理論計算, 5. その他), C. その他

8. 有機化学—反応と合成(一般的反応と合成に関する研究)

A. 脂肪族・脂環式化合物, B. 芳香族化合物, C. 複素環化合物, D. ヘテロ原子化合物, E. 有機金属化合物(主たる金属元素記号を1つ記入のこと), F. 有機光化学, G. 有機電子移動化学, H. ハイスループット合成(1. コンビケム・固相合成, 2. 新反応場(フロー法, マイクロリアクター, マイクロ波, 固定化法, 反応媒体), 3. 反応集積化), I. その他

9. 天然物化学(構造, 合成, 生合成など)

A. 脂肪酸関連化合物, ポリフェノール(ポリ環状エーテル, マクロリド, エンジン系化合物も含む), B. テルペン, ステロイド, C. アルカロイド, D. 糖, E. アミノ酸, ペプチド, F. コンビケム・固相合成, G. ケミカルバイオロジー(生物活性物質), H. その他 ※G. ケミカルバイオロジーは, 10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジーと同一会場でプログラムが組まれます(予定)。

10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジー

A. 機能性低分子・分子認識(錯体, ポルフィリン, 補酵素, イオン, ラジカルなど), B. 核酸(モデル化合物を含む), C. タンパク質・酵素(タンパク質工学, 酵素工学, ペプチド, モデル化合物を含む), D. 糖(糖鎖工学, モデル化合物を含む), E. 脂質・生体膜(モデル化合物, モデル膜を含む), F. 細胞(バイオプロセス, 細胞工学, 代謝工学, 培養工学を含む), G. 生命情報(ゲノム, 遺伝情報発現など), H. 環境バイオテクノロジー・食品バイオテクノロジー・バイオセンサー, I. メディカルバイオテクノロジー, J. 生体触媒反応, K. ケミカルバイオロジー(作用機構, バイオイメーキング, ラベル化, 機能制御など), L. その他 ※K. ケミカルバイオロジーは, 9. 天然物化学と同一会場でプログラムが組まれます(予定)。

11. 分析化学

A. 原子・分子スペクトル分析, B. レーザー分光分析(フォトサーマル, 蛍光, 時間分解, 顕微分光など), C. X線分析, D. センサー, E. 電気化学分析, F. 質量分析, G. フローインジェクション分析(FIA), H. 液体クロマトグラフィー(LC), I. ガスクロマトグラフィー(GC), J. 電気泳動分析, K. マイクロ・ナノ分析(マイクロチップ・ウェル, 超微粒子, 単一分子検出など), L. 分離・抽出・分析試薬の設計, M. プローブ顕微鏡, N. 界面分析, O. 標準試料・標準化, P. ケモメトリックス, データ解析法, Q. 環境・地球化学関連分析, R. 臨床・医療・法医学分析, S. バイオ分析(核酸, 遺伝子, タンパク質, 細胞, イメーキングなど), T. 食品・医薬品分析, U. 材料分析・材料解析(表面分析を含む), V. 有機・無機・金属・複合材料分析など, W. その他

12. 高分子

A. 高分子合成(1. ラジカル, 2. イオン, 3. 配位触媒, 4. 開環, 5. 重縮合・重付加, 6. ブロック・グラフト共重合・特殊構造高分子, 7. その他), B. 高分子反応, C. 高分子構造・物性, D. 機能性高分子(1. 高分子触媒, 2. 電気・電子・磁性, 3. 光, 4. 情報・記録, 5. バイオメディ

カル, 6. 膜・分離, 7. ゲル, 8. その他), E. 高性能高分子, F. 生体高分子, G. 高分子工業, H. その他

13. 触媒

A. 表面・吸着, B. 構造・物性・計算, C. 調製方法, D. 水素化・脱水素, E. 分解・改質・脱硫等, F. 酸化, G. 酸・塩基触媒, H. ゼオライト, I. メソポーラス物質, J. 環境触媒, K. 光触媒 (1. 可視光・太陽光の利用, 2. その他一般), L. 錯体・クラスター, M. 有機合成・重合, N. その他

14. コロイド・界面化学

A. 微粒子分散系 (1. サスペンション, 2. 微粒子・ナノ粒子, 3. 高分子コロイド, 4. 界面電気現象, 5. レオロジー, 6. その他), B. 分子集合体 (1. ミセル, 2. 高分子溶液, 3. 超分子・高次分子集合体, 4. 液晶・ゲル, 5. エマルション, 6. その他), C. 組織化膜 (1. 単分子膜・LB膜, 2. 自己組織化膜, 3. 二分子膜 (ベシクル・リボソーム等), 4. 界面物性 (気-液, 液-液), 5. その他), D. 固体表面・界面 (1. 表面構造と物性・機能, 2. 吸着と触媒, 3. 表面力・トライボロジー, 4. マイクロファブリケーションとナノテクノロジー, 5. その他), E. 新領域, F. 国際セッション (口頭講演 (英語) のみ募集)

15. 材料化学

A. 無機材料, B. 有機材料 (高分子材料を含む), C. 複合材料, D. 炭素材料, E. ガラス・アモルファス材料, F. 低次元材料 (薄膜, ナノ粒子など), G. その他

16. 材料の機能

A. 生体機能 (1. 生体適合, 2. DDS, 3. リボソーム, 4. 酵素, 5. その他), B. 光化学機能 (1. フォトクロミズム, 2. 光化学増幅, 3. 光硬化・分解, 4. 無機-有機複合系, 5. その他), C. エネルギー変換機能 (1. 化学的変換, 2. その他), D. 電子・磁気機能 (1. 超伝導, 2. 導電, 3. 半導, 4. 絶縁, 5. 磁気, 6. 光磁気, 7. その他), E. 光学機能 (1. 偏光, 2. 変調・増幅, 3. 非線形, 4. その他), F. 分離機能 (1. 輸送, 2. 吸着, 3. 膜, 4. イオン交換, 5. 包接, 6. 光学分割, 7. その他), G. その他

17. 材料の応用

A. センサー (1. 温度・湿度, 2. 物理量 (圧力・速度など), 3. 成分, 4. バイオセンサ, 5. その他), B. 記録・記憶 (1. カラーハードコピー, 2. 写真, 3. 磁気記録, 4. 光記録, 5. 印刷, 6. その他), C. 表示 (1. CRT, 2. 液晶, 3. プラズマ, 4. EC, 5. EL, 6. その他), D. 電子部品関連 (1. 半導体, 2. レジスト, 3. 封止, 4. 接続・実装, 5. その他), E. 光学部材 (1. レンズ, 2. ファイバー, 3. 非線形光学部材, 4. その他), F. 電池・エネルギー (1. 一次電池, 2. 二次電池, 3. 燃料電池, 4. その他電池, 5. 水素吸蔵合金, 6. その他), G. 分離部材 (1. 吸水ゲル, 2. イオン交換, 3. 選択透過膜, 4. その他), H. 染料・塗料・インキ (1. 光硬化, 2. キュアリング, 3. 機能性色素, 4. 分散, 5. 光造型, 6. その他), I. 接着剤・界面活性剤 (1. ナノ粒子, 2. 自己組織化膜, 3. 表面・界面, 4. 接着・粘着, 5. その他), J. ライフサイエンス, K. 医薬・農薬, L. 環境材料 (1. リサイクル, 2.

エコロジー, 3. 環境調和, 4. 劣化, 5. 安定化, 6. その他), M. 高性能材料 (1. ハイブリッド, 2. アロイ, 3. ブレンド, 4. ゼルゲル, 5. 耐熱難燃性材料, 6. 高強度高弾性材料, 7. その他), N. その他

18. 資源利用化学

A. 石油 (1. 石油化学, 2. 石油精製, 3. アップグレーディング, 4. 転換・分解, 5. 反応・触媒, 6. その他), B. 石炭 (1. 石炭化学, 2. 石炭液化, 3. 石炭ガス化, 4. コールタール化学, 5. 炭素材料, 6. 分離・利用, 7. 反応・触媒, 8. その他), C. ガス化学 (1. 天然ガス化学, 2. 合成ガス化学, 3. 反応・触媒, 4. その他), D. 環境資源化学 (1. CO₂ 捕捉, 2. CO₂ 転換, 3. 反応・触媒, 4. その他), E. 再生可能資源化学 (1. バイオマス, 2. マリーンバイオ, 3. 回収・再利用, 4. 廃プラスチックの再資源化, 5. その他), F. 海洋資源化学 (1. 海水溶存資源, 2. 海底資源, 3. その他), G. 鉱物資源化学 (1. 金属資源, 2. 非金属資源, 3. その他), H. 資源開発・管理 (1. 分布調査, 2. 保護, 3. 利用, 4. 回収, 5. 省資源, 6. その他), I. その他

19. エネルギーとその関連化学

A. エネルギー変換 (1. 燃料電池, 2. 太陽電池, 3. 電気化学プロセス, 4. 光電気化学, 5. その他), B. エネルギー貯蔵 (1. キャパシタ, 2. 二次電池, 3. 水素貯蔵, 4. 相変化・構造変化, 5. その他), C. エネルギーの高度利用 (1. 光触媒, 2. 省エネルギー素材, 3. その他), D. 電気化学 (1. 腐食防食, 2. 固体電解質, 3. 溶融塩, 4. 電解合成, 5. その他), E. 光化学 (1. 光誘起電子移動, 2. 励起状態と緩和過程, 3. 光合成関連化学, 4. レーザー誘起反応, 5. 有機光化学, 6. その他), F. 放射線化学・核化学・放電・プラズマ, G. 高温化学・燃焼・火薬, H. 超音波化学, I. その他

20. 環境・グリーンケミストリー, 地球・宇宙化学

A. 地球化学・宇宙化学, B. 大気環境化学 (1. 環境動態, 2. 環境保全技術, 3. 環境分析, 4. その他), C. 水質環境化学 (1. ~4. は上と同じ), D. 廃棄物・土壌環境化学 (1. ~4. は上と同じ), E. 安全化学, F. グリーンケミストリー, G. 地球環境への材料の応用 (1. 生分解・光分解, 2. リサイクル, 3. 海洋・砂漠・オゾン, 4. その他), H. 環境調和, I. 光触媒 (1. 酸化還元反応, 2. 親水化反応, 3. 水分解, 4. 環境改善, 5. その他), J. その他

21. 理論化学・情報化学・計算化学

A. 電子状態, B. 化学反応, C. ダイナミクス, D. バイオ, E. 材料, F. シミュレーション, G. 数理化学, H. 化学情報, I. その他

22. 有機結晶

A. 構造と物性, B. 分子集合系構築, C. 分子認識, D. 動的挙動, E. 分子集合体中の反応, F. 低秩序分子集合体, G. その他

3.2 アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP)

下記 P1 ~ P7 の産業適用分野で ATP ポスターを募集します。実施日は3月22日~24日を予定しています。なお

オールセッションの内容については、後述の**9.1 アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP)** をご覧下さい。

P1. エネルギー

例；創エネ，蓄エネ，送エネ，節エネ，等々

P2. 資源・環境・GSC

例；炭素資源，レアメタル，化学プロセス，触媒，等々

P3. 食糧・水

例；バイオ品種改良，農薬，肥料，水処理，等々

P4. 運輸・住宅

例；自動車素材，航空用素材，建築素材，構造材，等々

P5. 通信・エレクトロニクス

例；プリンテッドエレクトロニクス，有機エレクトロニクス，等々

P6. 医療・ヘルスケア

例；創薬，診断薬，人工臓器，再生医療，等々

P7. 生活資材

例；繊維，紙，包装材，トイレタリー，化粧品，等々

4 講演予稿原稿

4.1 提出期間

2013年1月8日～1月17日

締切期日までに講演予稿原稿を提出しない場合は，講演を中止したものとしますのでご注意ください。

4.2 提出方法

講演予稿原稿をPDFファイルで作成の上，春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上の予稿原稿投稿フォームから提出して下さい。提出の際には，**講演申込受付番号および講演番号**が必要です。

フォームが使用できない場合は，お早めに事務局にお問い合わせ下さい。締め切り間際ですと対応できかねる場合もございます。

受理後の原稿の訂正はできません。また，提出された原稿は返却いたしませんので，あらかじめご了承下さい。

4.3 作成方法

春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上で公開するテンプレート（雛型）を使って，PDFファイルを作成して下さい。講演予稿原稿には，和文・英文の演題・所属・発表者氏名および和文（または英文）の本文に加えて，英文アブストラクト（本文が和文の場合のみ）および英文キーワードを入れて下さい。講演予稿集はモノクロで印刷され，1講演あたりのサイズはA4判の1/4です。図表・写真等を入れる場合には，この点を考慮して下さい。詳細は，春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上の，「**予稿原稿作成要項**」をご参照下さい。

5 講演予稿集

5.1 発行日

2013年3月8日（予定）

5.2 発行形式

形式	内容
DVD	参加登録費に含みます（入会準備学部学生を除く）。

冊子	4分冊での発行を予定。収録内容は次項を参照下さい。参加登録費には含まれないので別途申込が必要です。
WEB	参加予約申込をし，期間内にお支払をされた方のみ春季年会ウェブサイトにて閲覧可能です。

5.3 冊子体の収録内容

分冊	収録内容	価格
I分冊	アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP)，学会賞，特別講演，特別企画，市民公開講座	2,500円
II分冊	1. 化学教育・化学史，2～4. 物理化学，5. 無機化学，6. 錯体化学・有機金属化学，11. 分析化学，13. 触媒，18. 資源利用化学，19. エネルギーとその関連化学，20. 環境・グリーンケミストリー，地球・宇宙化学，21. 理論化学・情報化学・計算化学	3,500円
III分冊	10. 生体機能関連化学・バイオテクノロジー，12. 高分子，14. コロイド・界面化学，15. 材料化学，16. 材料の機能，17. 材料の応用，22. 有機結晶	3,500円
IV分冊	7. 有機化学-物理有機化学，8. 有機化学-反応と合成，9. 天然物化学	3,500円

6 参加登録

講演申込者・講演者（登壇者）・連名者（共著者）の如何にかかわらず本年会に参加される方は，全員参加登録が必要です。本年会の参加登録の概要は以下の予定です。詳細は本誌1月号にてご確認ください。

6.1 申込期間

2013年1月23日～2月22日

※参加費等の支払い締切日は2013年2月22日です。

6.2 申込方法

春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上の参加予約申込フォームからお申し込み下さい。

6.3 参加登録費

参加登録費は以下の表のとおりで，いずれも講演予稿集DVD-ROMが含まれます（入会準備学部学生を除く）。

なお，講演予稿集（冊子），懇親会参加をご希望の場合には別途費用が発生いたします。

会員区分	予約	当日	課税区分
正会員	12,000円	14,500円	不課税
正会員割引*1	9,500円	9,500円	〃
学生会員	4,000円	5,500円	〃
学生会員割引*2	3,500円	3,500円	〃
教育会員	5,000円	6,500円	〃
非会員	24,000円	25,500円	〃
入会準備学部学生*3	-	2,000円	〃

*1 満60歳以上で定職に就いていない方（通称：シニア

会員)

- *2 学部3年以内の方(専攻科1年以下の高専生を含む)
(通称:ジュニア会員)
- *3 研究発表を行わない非会員(未入会)の大学の学部学生及び高等専門学校(高専)の学生が対象。ただし、参加登録費に講演予稿集DVD-ROMは含まない。

6.4 懇親会

日時 2013年3月23日18時～

会場 立命館大学びわこ・くさつキャンパス内

参加費 予約 一般5,000円, 学生2,000円

当日 一般6,000円, 学生2,000円

申込方法

春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 上の参加予約申込フォームからお申し込み下さい。懇親会のみのお申し込みも可能です。

6.5 宿泊・交通について

本年会実行委員会では、宿泊・旅行等の斡旋はいたしませんので、各自の責任において手配して下さい。春休みの旅行シーズンでもありますので、早めの準備をお勧めします。

7 付設展示会出展募集

付設展示会への出展受付業務は化学工業日報社に委託しました。出展をご希望されるお客様は下記までお問い合わせ下さい。

7.1 概要

会期 2013年3月22日～24日

会場 立命館大学びわこ・くさつキャンパス内

出展の対象

汎用科学機器・装置/汎用器具・消耗品/分析機器・装置/物理量・物理測定装置/試験機器・装置/実験室設備/試薬類/情報処理技術/書籍/環境関連機器・装置/CD-ROM/インターネット関連/安全性試験受託・分析リサーチ/耐震・防災・保護・避難/PRTR対策技術/CCS関連ソフト(分子設計支援システム/ポリマー設計支援システム/材料設計支援システム/タンパク工学支援システム/遺伝子工学支援システム/分子構造決定支援システム/合成設計支援システム/データベースシステム/計算化学プログラム/ラボラトリーオートメーション)/コンピナトリアルケミストリー/ナノテクノロジー関連/バイオテクノロジー関連

7.2 お問い合わせ先

(株)化学工業日報社 企画局 担当:平川

〒103-8485 東京都中央区日本橋浜町3-16-8

電話(03)3663-7936 FAX(03)3663-7861

E-mail: h_hirakawa@chemicaldaily.co.jp

8 広告募集

本年会における下記媒体への広告を募集いたします。詳細情報は、春季年会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) 掲載の要項または下記へお問い合わせ下さい。

8.1 募集広告一覧

媒体名	発行数	配布対象
①プログラム	10,000	参加者全員
②展示会ガイドブック	〃	〃
③講演予稿集(DVD)	〃	〃
④講演予稿集(冊子)	各500	希望者へ有償配布
⑤ウェブサイト・バナー	-	-
⑥手提げ袋	10,000	参加者全員

8.2 お問い合わせ先

②展示会ガイドブック, ③講演予稿集(DVD), ⑥手提げ袋

(株)化学工業日報社 企画局 担当:平川

〒103-8485 東京都中央区日本橋浜町3-16-8

電話(03)3663-7936 FAX(03)3663-7861

E-mail: h_hirakawa@chemicaldaily.co.jp

①プログラム, ④講演予稿集(冊子), ⑤ウェブサイト・バナー

(株)明報社 担当:後藤

〒104-0061 東京都中央区銀座7-12-4 友野本社ビル

電話(03)3546-1337 FAX(03)3546-6306

E-mail: goto@meihosha.co.jp

9 会期中に予定されている企画

本年会において実施予定の①アドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP), ②アジア国際シンポジウムをご紹介します。春季年会では例年多数のシンポジウム、行事が企画されます。詳細は本誌1月号に掲載予定です。

9.1 アドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP)

実施日 2013年3月22日～25日

開催趣旨

春季年会では、産業界が注目する化学技術分野を中心とする研究発表を通じて産学官の交流・深化を図る目的で、2005年よりアドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP)を実施してきました。

9年目を迎える今季のATPでは、従来の企画を大きく刷新し、ATPセッション、ATPポスターに加えて、新たな企画も予定しています。特にATPセッションでは、セッション構成を見直し、注目度の高い喫緊の課題を取り上げたプログラムを提供します。

ATPセッション

T1. 資源・次世代エネルギーと環境

A. 太陽光発電技術の現在と未来, B. 燃料電池・水素エネルギー技術, C. 大型蓄電技術, D. 未利用熱エネルギー技術, E. 多様化する炭素資源

[オーガナイザー]: 瀬川浩司(東大先端研・教授), 佐々木一成(九州大学水素エネルギー国際研究センター・センター長), 安部武志(京大院工・教授), 浅井美博(産総研ナノシステム・副研究部門長), 原 亨和(東工大応セラ研・教授)

[趣旨]: 東日本大震災と原発事故を機に、エネルギー問題がより顕在化してきています。本セッションは下記5つのサブセッションを設定し、化学が果たせる役割を産学官で

共に考える情報交流の場を提供します。多数の参加と熱気溢れる議論を期待しています。

A. 太陽光発電技術の現在と未来:東日本大震災以降、再生可能エネルギーの利用拡大に対する期待が、かつてなく高まっています。太陽光発電は、日本の再生可能エネルギーの中核を担ってきましたが、その技術開発は産学官一丸で進められ多くの成果が生まれる一方で、世界的には厳しい競争にさらされています。本サブセッションでは、高効率化、長寿命化、用途の多様化、低コスト製造プロセスの開発など日本の太陽光発電技術を総括し、未来への展望を明らかにします。

B. 燃料電池・水素エネルギー技術:クリーンエネルギーへの期待から、水素インフラ整備とともに2015年頃から市販が計画されている燃料電池車や普及が進む家庭用燃料電池。これらの燃料電池・水素エネルギー技術の更なる発展のために、第一線で活躍する方々を一堂に会して、研究開発でケミストリーに期待されることや将来テーマについて議論します。

C. 大型蓄電技術:太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギー技術の普及に伴い、蓄電技術が果たすべき役割も重要になっています。本サブセッションでは、発電技術の多様化実現に貢献する大型蓄電技術について、開発動向から将来展望まで幅広く議論します。

D. 未利用熱エネルギー技術:社会全体のエネルギー効率の向上が強く求められていますが、未利用熱エネルギーの有効利用技術の確立がその実現に向けた大きな柱となります。中低温、特に100℃以下の熱の有効利用技術の確立が、社会全体のエネルギー効率の向上に優れて有用です。新規材料の開拓による技術の高性能化が必須であり、モジュール化・システム開発とともに重要な開発要素です。蓄熱、断熱、熱電変換の3つの技術要素を核としたこの分野の今後の研究動向・展開について、本サブセッションで議論します。

E. 多様化する炭素資源:化学工業は原料となる炭素資源を石油など化石資源に求めてきましたが、原油は高騰し一方でシェールガスなど非従来形資源が台頭する中で、これまでとは異なる発想で炭素資源を開発する動きが活発化しています。本サブセッションではこうした動きを捉え、今後の炭素資源の方向性を考える一助とします。

T2 新材料開発最前線

A. 次世代リソグラフィ、B. プリンテッドエレクトロニクス、C. 自己組織化技術、融合マテリアルが支えるバイオミメティクス研究の最前線

[オーガナイザー]:平井義彦(阪府大院工・教授)、工藤宏人(関西大化学生命工学・准教授)、菅沼克昭(阪大産研)、彌田智一(東工大資源研・教授)、大槻主税(名大院工・教授)、下村政嗣(東北大WPI-AIMR・教授)

[趣旨]:現在、産業界から注目を集めている新材料として「A:次世代リソグラフィ」、「B:プリンテッドエレクトロニクス」、「C:自己組織化技術、融合マテリアルが支えるバイオミメティクス研究の最前線」の3つのサブセッションを設定しました。特に「C:自己組織化～」では、強

調セッションとして3日間連続開催する予定であり、「分子から生物まで」、「学術から産業まで」、周辺領域を包含する広範な内容について分野を超えた活発な議論を期待しています。

A. 次世代リソグラフィ:次世代リソグラフィ技術として、ArF液浸露光システム、極端紫外線(EUVL)露光システム、ナノインプリントシステム、及び自己組織化システムの開発が進められ、20nm以下のパターン性能が求められています。しかしながら、それらの量産化には克服しなければならない多くの課題が存在します。本サブセッションでは、最新の研究開発状況と今後の課題について議論します。

B. プリンテッドエレクトロニクス:プリンテッドエレクトロニクスは、この一年で量産実用と国際標準化競争が同時に開始されるなどめまぐるしい動きを見せ、一方で枯れたSi技術との競合で苦戦する分野もあります。いずれの領域でも材料技術がその真価を問われており、実用化を一層推し進めるための開発が望まれています。本サブセッションでは、その最前線の材料技術を取り上げて今後の開発の起爆剤とします。

C. 自己組織化技術、融合マテリアルが支えるバイオミメティクス研究の最前線:バイオミメティクスの現代的な意義は、生物の階層的な構造による機能発現をもたらすパラダイムシフトと、「自己組織化」を含むモノづくりプロセスの革新による持続可能性への寄与です。そして現代的な課題は、分子~材料~機械へとナノからマクロにいたる階層を繋ぐことであり、そこに世界の新潮流があります。バイオミメティクスに軸足を置きながら、有機と無機の融合、ナノテクノロジーと生物学の連携、材料科学と機械工学の融合、情報科学や環境科学からの視点などに着目し、異分野連携、産学連携まで議論の輪を広げていきます。

T3 バイオ技術の新展開

A. 生物機能の新展開—微生物は食糧問題を解決できるか?—、B. バイオ電池の新展開—生物触媒は電力問題を解決できるか?—、C. ナノメディシンの新展開—ナノ技術はアンメットメディカルニーズを解決できるか?—

[オーガナイザー]:宮本憲二(慶大理工・准教授)、加納健司(京大院農・教授)、秋吉一成(京大院工・教授)、菅裕明(東大院理・教授)

[趣旨]:ヒトゲノムが解明され、まさにポストゲノム時代のまっただ中、新たなバイオ技術も生まれていますが、それをいかに展開して科学・産業・社会のイノベーションに結び付けるかが大きな使命であり、社会の大きな期待でもあります。本セッションでは、現在社会で大きな問題となっている食糧問題、電力問題、医療ニーズを取り上げ、これらに対してバイオの技術がどこまで解決策を提供できるか、どこまで迫れるかについて徹底的に議論する目的で、下記3つのサブセッションを企画しました。第一線で活躍する講演者と参加者が一堂に会し、新たなバイオ技術の研究開発と課題、その展開による新たな産業の創生、すなわちグリーンイノベーションやライフイノベーションへの挑戦について、講演やミキサー等を通じて広く深いアイディ

ア、知恵、そして技をぶつけ合う、夢溢れる場を提供します。

A. 生物機能の新展開—微生物は食糧問題を解決できるか?—: 生物機能は、環境調和型物質生産、医薬・農薬の開発や作物の栽培等、様々な応用が考えられていますが、自然界から得られる酵素を工業利用する場合、必ずしもその特性が十分に活用しきれていない場合があります。本サブセッションでは、その性能向上に向けて、自然界に存在しない酵素をデザインし、これらを含めて複合微生物機能を活用した食糧問題の解決方法を中心に話題を提供します。

B. バイオ電池の新展開—生物触媒は電力問題を解決できるか?—: 食糧問題と並んで昨今クローズアップされている電力問題に対して、グリーンイノベーションによる様々な解決策が求められている中で、生体エネルギー変換系に学ぶエネルギー変換デバイスとしてのバイオ電池の研究が、ここ10数年間活発に行われてきています。本サブセッションでは、このバイオ電池の現状と課題について紹介するとともに、今後の実用化に向けた新たな展開について多面的に議論することを目的とします。

C. ナノメディシンの新展開—ナノ技術はアンメットメディカルニーズを解決できるか?—: 巨額の研究開発投資を行っても承認される低分子医薬品の数は増えず、研究開発効率の低下が叫ばれている中、ナノテクノロジー技術に基づくナノバイオ技術に大きな期待が寄せられています。本サブセッションでは、ナノバイオデバイス、ナノDDS、ナノイメージング等の最先端研究を紹介するとともに、これらのナノメディシンによる創薬と診断がアンメットメディカルニーズに応え、ヘルスケア領域でライフイノベーションをもたらすことができるかについて議論します。

ATP ポスター

3月22日～24日に実施を予定しています。3.2. **アドバンスド・テクノロジー・プログラム (ATP)** に記載したP1～P7の産業適用分野で発表を募集します。今季より、優秀講演賞(産業)の審査をATPポスター発表で実施します。

博士セミナー

科学技術で生き残りを図る日本においては、科学技術を推進する原動力、イノベーションの担い手として、アカデミアのみならず産業界においても高度な知識と研究開発力を持った博士人材が必要であり、期待もされています。しかしながら、博士後期課程学生が産業界に目を向ける機会は少なく、また産業界でも、未だ博士の活用に敷居が高い企業があるのも事実です。日本化学会では、平成19年度より「博士セミナー」を開催して博士後期課程在学生在に産業界をもっと知ってもらおう試みを行ってきました。企業で活躍する多様な博士人材のメッセージを発信することで企業を知ってもらい、産業界での博士の活躍の場をより一層増やす一助にしたいと考えています。博士後期課程在學生、進学希望の博士前期課程在學生、ポスドク研究者をはじめ、関心をお持ちの企業関係者の皆様の参加をお待ちします。(3月24日実施予定)

上記の他、ATP 特別パネルディスカッション、JACI(新化学技術推進協会)との共催シンポジウム、ATP交流会(3月22日実施)も予定しています。

9.2 アジア国際シンポジウム

学術研究活性化委員会では、春季年会の活性化を目的として、我が国とアジア諸国の産学の若手研究者によるアジア国際シンポジウムを開催します。開催予定のディビジョンは下記のとおりです。

1. 物理化学
2. 光化学
3. 理論化学・情報化学・計算化学
4. 無機化学/錯体化学・有機金属化学
5. 有機化学/環境・安全化学・グリーンケミストリー・サステイナブルテクノロジー
6. 天然物化学・生命科学/生体機能関連化学・バイオテクノロジー
7. 高分子

第93春季年会(2013)「優秀講演賞(産業)」 “CSJ Presentation Award 2013 for Industries” 受賞候補者の募集について

産学交流委員会委員長 千葉泰久

日本化学会産学交流委員会では、平成20年度から「優秀講演賞(産業)」の表彰を行っていますが、来る平成25年3月22日(金)～25日(月)、立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催される標記年会においては、下記要領のとおり審査形式や審査分野などを大幅に刷新して審査・選考を行い、優れた講演者に対して「優秀講演賞(産業)」を授与いたします。

多くの皆様のご応募をお待ちしています。奮ってご応募下さい。

選考対象者:

産学を問わず平成25年4月1日時点で満40歳に達していない学生会員及び正会員で、講演申込時に審査希望を申請した者。過去の受賞経験者は、研究内容が全く異なる場合、あるいは研究開発ステージが上がるなど研究の進展が顕著な場合に限り対象とします。

審査形式:

ATPポスターの発表で審査します。アカデミック・プログラム(AP)の口頭A講演や口頭B講演と同様の内容で、

ATP ポスターに申込みことが可能です。

審査分野：

アカデミック・プログラム (AP) の全部門を対象とし、下記7つの産業適用分野を審査分野として審査します。講演申込時に審査分野を明記して、審査希望を申請して下さい。

- P1. エネルギー (例；創エネ、蓄エネ、送エネ、節エネ、等々)
- P2. 資源・環境・GSC (例；炭素資源、レアメタル、化学プロセス、触媒、等々)
- P3. 食糧・水 (例；バイオ品種改良、農薬、肥料、水処理、等々)
- P4. 運輸・住宅 (例；自動車素材、航空用素材、建築素材、構造材、等々)
- P5. 通信・エレクトロニクス (例；プリントエレクトロニクス、有機エレクトロニクス、等々)
- P6. 医療・ヘルスケア (例；創薬、診断薬、人工臓器、再生医療、等々)
- P7. 生活資材 (例；繊維、紙、包装材、トイレタリー、化粧品、等々)

選考方法：

産学交流委員会及び傘下の各小委員会委員、並びに日本化学会フェローなどのほか、委員より推薦され委嘱された複数の審査委員が、審査申請された ATP ポスター発表を選考基準に基づいて審査し、会期後に ATP 企画小委員会で選考を行い、産学交流委員会で決定します。

選考基準：

産業に対する寄与が期待される基礎的または応用的な概念、アイデア、実験手法、実験結果などについての発表であり、発表者の研究に対する主体性や貢献度が優れ、かつ今後の研究活動の一層の発展の可能性を有すると期待されるもの。

授与件数：

審査分野ごとに20件に1件の割合で授与します。

賞状の授与：

日本化学会会長名の賞状を授与します。年会終了後、日本化学会から所属長を経由して本人に賞状を送付し、後日、「化学と工業」誌に氏名、所属、演題を掲載します。

「日本化学会秋季事業—第2回CSJ化学フェスタ2012」 当日登録のご案内

化学フェスタ実行委員会

主催	日本化学会
共催(予定)	東京工業大学
後援(予定)	文部科学省・経済産業省・国立科学博物館・科学技術振興機構・日本化学工業協会・新化学技術推進協会
会期	2012年10月14日(日)～17日(水) 4日間
会場	東京工業大学 大岡山キャンパス
問合せ先	日本化学会 企画部 河瀬・美園 電話(03)3292-6163 E-mail: festa@chemistry.or.jp URL: http://www.csj.jp/festa/

本誌7月号～9月号でご案内しましたとおり、本会では下記2点を主旨として、上記要領にて「日本化学会秋季事業—第2回CSJ化学フェスタ2012」を開催します。

- 最先端の化学と化学技術に関する産学官の交流深耕による化学、化学技術及び産業の発展への寄与とイノベーション強化
- 化学の成果と未来に向けた化学の貢献努力の社会への発信

今回のCSJ化学フェスタは、前回以上に魅力的な企画が目白押しです。各企画のプログラムはウェブサイトにてご覧いただけます。企画へ参加される方には参加費有料・無料に関わらず参加登録をお願いしています。当日会場内の受付(東工大蔵前会館)までお越し下さい(参加費：正会員14,000円、非会員24,000円、学生会員無料、非会員学生1,000円)。また、同会場にて(独)産業技術総合研究所、(公社)新化学技術推進協会、(一社)日本化学工業協会、それぞれによる企画も併催されますので、会員の皆様におかれましては、奮ってご参加下さいますようお願いいたします。